ユニバーサルデザイン導入

バリアフリー11室改修

富士レークホテル 高齢者需要狙う

UDルームには座れる高さの畳スペースを設ける

河口湖畔の老舗ホテル、富士レークホテル（山梨県富士河口湖町）は高齢者や身体障害者らが使いやすい「ユニバーサルデザイン（UD）」の考え方を全面的に導入する。車いす利用者向けに段差を無くしたバリアフリーの客室を十部屋以上設けるほか、低カロリーなどの要望に個別に対応できるレストランを新設する。少子高齢化の進展を見据えて、高齢者の需要獲得を狙う。

二〇〇六年一月に客室の改修に着手。四月の利用開始を予定する。小型のツインなど十七部屋を大型のUDルーム十一部屋に改修する。

一九九九年以降、二部屋をバリアフリーにしたほか、各所にスロープを設けるなどUD化に取り組んできた。改修で全客室八十部屋強のうち十三部屋がUDとなる。一部屋（定員四―七人）の料金は一泊六万―十万円と高いが、需要はあると判断した。

一、二部屋をUD化する例は多いが、十室以上というのは全国でも少なく、高齢化を踏まえた経営戦略として注目を集めそうだ。

UDルームは、車いすでも使いやすいように引き戸を導入し、全体的にスペースを広くする。部屋の端に座れる高さの畳スペースを設けるほか、客室番号の表示を大きくするなど、細やかな気配りを採り入れる。

低カロリーや油分控えめといった要望に個別に対応するレストランも来夏をメドに新設する。ゲームやカラオケ用のスペースを改修。ゲーム機の数は現在の四十台から五台に減らす。

客室とレストランを合わせて投資額二億五千万円を見込んでおり、中小企業金融公庫と商工組合中央金庫の協調融資で全額をまかなう。

UDを本格導入することで売上高十億円台の回復を目指す。バブル期に十億円を超えた売上高はここ数年九億円前後で推移している。井出泰済常務は「設備を整えるだけでは無意味。従業員の接客方法などソフト面を抜本的に変える必要がある」として、今後数年でじっくり成果を出す考えだ。

掲載日 2005年12月20日 日本経済新聞地方経済面 025ページ

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。